京都

リハビリテーション医療・介護フォーラム 2025

もっと!!

広げよう！深めよう！

2025.2.8(土)▸2.9(日)　会場　京都産業会館ホール

主催　京都リハビリテーション医療・介護フォーラム2025実行委員会

▸参加費

会員：3,000円　非会員：3,500円

▸フォーラム ホームページ

https://krkforum.wixsite.com/2025

参加方法

❶ 事前の参加登録にご協力ください　❷ 参加費は当日、現金でお支払いください

会員 3,000円（京都リハビリテーション医療・介護フォーラム）　非会員 3,500円

※入会方法は中面をご参照ください

2025年2月8日（土）

	第1会場（2F北室）	第3会場（2F南室）
14:00	開会式	
14:10	もっと知ろう！お隣の専門職	
15:40		
15:50	私たちの、働き方！改革	通年企画はじめます！Part1 身体拘束ゼロを目指す 私たちの取り組み
16:50		
17:00	通年企画はじめます！Part2 フォーラム版 「リハビリサマリー」 作っちゃいます	地域における 発達支援を考える
18:00		

第2会場（2F中室）

両日終日、エキシビジョン、ワークショップなど開催中

2025年2月9日（日）

	第1会場（2F北室）	第3会場（2F南室）
09:00	2日目開会式	
09:05	私たちが考える自立と共生	京都JRAT研修会
10:05		
10:15	生討論！ 病院・在宅における 情報共有・連携の 実際と本音 Part2	そこってどんなとこ？ COCO・てらす 京都市障害者スポーツセンター
11:10		待ったなし！ 心不全パンデミックと リハビリテーション医療・介護
12:00	ポスター発表、参加者交流（第2・3会場）	
13:30	栄養・口腔・嚥下 どう繋がる？繋がるとどうなる？	義肢装具士とセラピストが 協力すると何が生まれる？
14:40		
14:50	痛みをとると活動が変わる！	今、DXで医療・介護が変わる！
15:50		
16:00	みんなで話ろう これからのフォーラム これからの京都	
17:00	閉会式	

京都リハビリテーション医療・介護フォーラム 世話人代表

三上 靖夫

（京都府立医科大学大学院リハビリテーション医学 教授）

超高齢社会となったわが国では、リハビリテーション医学・医療が健康寿命延伸の鍵を握るといわれていますが、医療機関の機能分担によってリハビリテーション医療は急性期、回復期、生活期の各フェーズに分けられています。生活期は介護領域と密接な関係にあり、各フェーズに多くの専門職種が関わっています。リハビリテーション医療と介護を切れ目なくスムーズに展開させるためには、各フェーズ間、同職種間および多職種間の相互理解に基づく連携と協働が必須です。しかし、多くの医療・介護の現場で十分な連携がとれているとは言い難いのが現状です。そこで、職種を越えた交流や議論の場を設け、多職種で、全世代の人々に対するリハビリテーション医療・介護を充実させ、福祉とも連携し地域包括ケアシステムの充実に寄与することを目的として、本会は設立されました。

本会は、医師はもちろん、京都府理学療法士会、京都府作業療法士会、京都府言語聴覚士会、京都府看護協会、京都府介護支援専門員会、京都社会福祉士会、京都府介護福祉士会、京都医療ソーシャルワーカー協会、京都府訪問看護ステーション協議会などの各職能団体に所属する専門職によって構成されています。医療・介護の現場では、多くの職種が関わっていますが、お互いの職種の役割や得意とすることを良く理解できておらず、そのために連携が十分とれていないケースが多いのが現状です。2024年2月に開催したフォーラム2024では、この趣旨に賛同した470名を超える参加者が集い、連携の輪を広げることができました。今回のフォーラム2025では、さらに連携を強めるために、“もっと!! 広げよう! 深めよう!” をテーマとしました。参加者にとって、診療や介護にフィードバックできる、実りのある会とすべく、鋭意準備を進めております。みなさまのご参加をお待ちしております。

京都リハビリテーション医療・介護フォーラム入会のご案内

この機会に、入会をお願いします。
京都府内でのリハビリテーションに関する情報をお届けします。
毎年開催するフォーラムの参加費が割引になります。
各種イベントを予定しています。

年会費 2,000円（銀行振込） 入会方法はホームページをご参照ください

会場案内

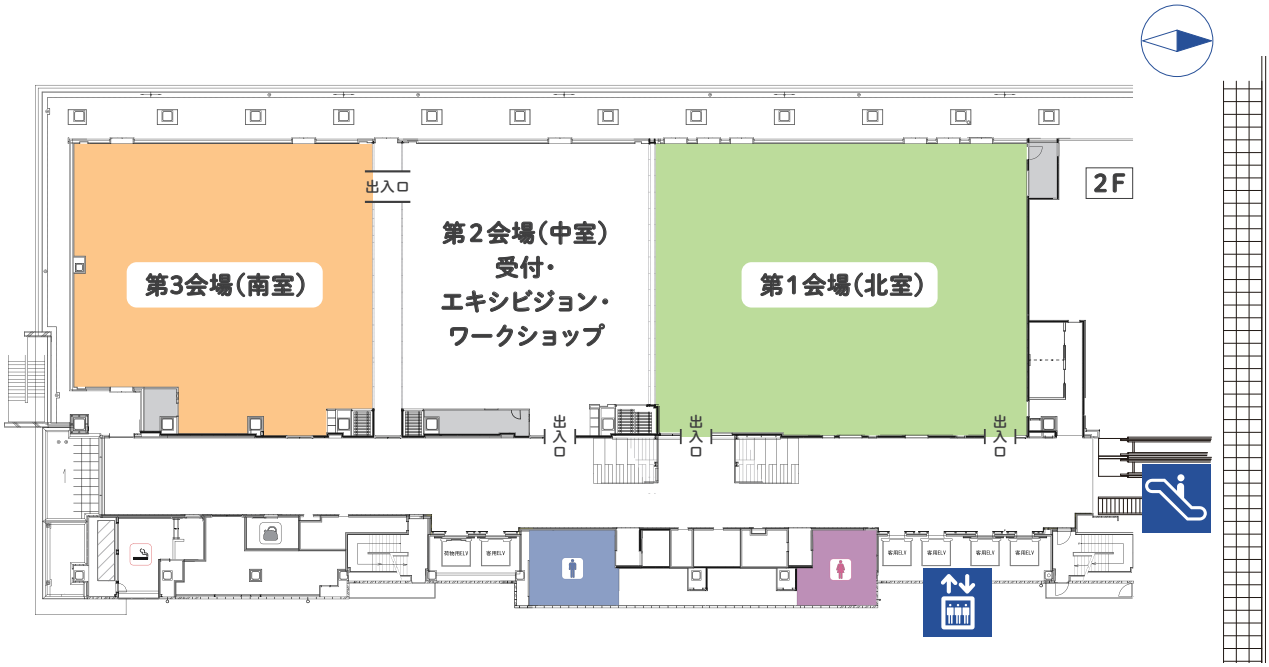
お越しの際は、電車バス等の公共交通機関をご利用ください

- 電車　市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車
  北改札口より、徒歩２分

  阪急京都線「烏丸駅」下車
  西改札口より、徒歩２分

  （地下鉄・阪急/地下道 26 出口
  京都経済センターB1階入口直結）

- バス　四条烏丸バス停前（南側）



後　援

京都府
一般社団法人京都府医師会
一般社団法人京都府理学療法士会
一般社団法人京都府作業療法士会
一般社団法人京都府言語聴覚士会
一般社団法人日本義肢協会 近畿支部
一般社団法人日本義肢装具学会
公益社団法人京都府看護協会
一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会
一般社団法人京都社会福祉士会
一般社団法人京都医療ソーシャルワーカー協会
公益社団法人京都府介護支援専門員会
一般社団法人日本生活期リハビリテーション医学会

2025.2.8 土

第1会場（2階北室）

14:00 **開会式**

14:10 **もっと知ろう！お隣の専門職** 1-1-1

前回に続く、企画となります。今大会のコンセプトの一つに多職種連携というキーワードがあります。医療・介護分野においては聞き慣れたキーワードではありますが、何年経っても連携の課題というのは、今もなお残っている印象です。多職種間の連携を上手く行うためには、まず各専門職がそれぞれの役割を認識し、その役割を担っていくことが重要と考えます。

今回の企画では、前回と同様、多くの専門職の方に登壇いただき、各専門職の紹介をしていただきます。その中で、職種の特徴や役割を知ることができる良い機会になります。お互いの仕事内容を知ることで、より理解も深まり、明日につながる企画となることを期待しています。今大会も一発目の目玉企画です。

是非、初日から会場へ足を運んでいただけますようご参加よろしくお願いします。

登壇者

DR 児玉 直俊　DDS 大河 貴久　PT 井口 聡　OT 渡邉 聡　ST 堀江 祐希
NS 中島 美代子　HNS 勝本 孝子　SW 森 賢一　MSW 島田 浩　CM 山下 宣和
CW 北川 美江　PO 峯松 亜由美　RO 松本 さなえ

15:40

15:50 **私たちの、働き方！改革** 1-1-2

現在、“働き方改革”は、どの分野においても重要な経営課題の一つとして、世の中に認知されてきています。厚生労働省が、2019年に発表した定義によれば、「働き方改革とは、働く人々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で選択できるようにするための改革」とされています。この数年の間にも、多くの企業が働き方改革への取り組みを実現している、そのような話もよく耳にするようになりました。

そして、医療・介護領域においても、働き方改革への取り組みは重要なキーワードとして認知されていると考えます。今回の企画は、テーマを“私たちの働き方！改革”とし、各専門職から、実際の働き方改革への取り組みについての紹介、または、まだ取り組みには至っていないが、こういった課題に対して改善に向けた実現を目指したいなど、リアルな現状を聞ける、共有できるそんな企画になります。まだまだ医療・介護領域においては働き方改革への取り組みが実現できていないところは多いと思います。今回の企画で、少しでも今後の参考や一助になれば幸いです。登壇者のみなさまご協力よろしくお願いします。そして、聴講者の皆様、少しでも多くの聴講お待ちしております。

登壇者

PT 高橋 慎太郎　OT 増田 剛　ST 大橋 良浩　NS 富田 登志恵

16:50

第3会場（2階南室）

通年企画はじめます！ Part1 1-2-1

身体拘束ゼロを目指す私たちの取り組み

～人生100年時代を尊厳をもって生きる～

人生100年時代を生きる人々の尊厳を、私たちは、医療・福祉・介護の専門職としてどう支えていくのか。未だ、医療の現場で行われている身体拘束をどのようにして最小化していくのか。

今回は、身体拘束ゼロに向けての取り組み（情報交換）第一弾として、前半で、療養の場（病院、介護施設、在宅）毎の、身体拘束ゼロに向けての取り組みについて、多職種から報告してもらい、現状や課題、取り組む者たちの思いについて情報交換を行う。後半は、「身体拘束のない療養の場をどのようにして作っていくか」について意見交換を行い、次年度の「身体拘束ゼロに向けての活動と成果」（活動報告）につないでいく。

登壇者

DR 酒井 達也　OT 奥野 隆司　NS 西岡 さおり　NS 髙野 佳子
HNS 加藤 小津枝　SW 松本 誠　CW 渡辺 展久

第1会場（2階北室）

17:00

通年企画はじめます! Part2 1-1-3

フォーラム版「リハビリサマリー」作っちゃいます

昨今、「働き方改革」が医療業界でも言われるようになってきました。「より多くの人が」「より生産的に」働けることを目指す取り組みです。急性期病院は、診療報酬改定で入院期間が短縮され、ベッドの回転率が高くなってきています。急性期病院は忙しい・・・なぜなら患者数が多いからです。多くの患者が入退院をしますので、その数だけの書類に追われることになります。本当に急性期病院からの退院時サマリーは有効に使われているのか？見直し削減することは出来ないだろうか？

そこで急性期病院から回復期リハ病院・在宅への退院時サマリーを見直す機会を作ろうと企画しました。サマリーは基本的に1方向性の伝達ツールです。急性期病院側には、退院時サマリーがどのように活用されているのかのフィードバックがない状態です。まずは、現在使用されている退院時サマリーを見直し、回復期リハ病棟・在宅側からどれくらいどういう所を活用しているのかを知ることから始めようと思っています。効率的な連携を目指し、第一歩を踏み出せたらと考えています。

18:00

登壇者

PT 石田 俊介　OT 松井 善也　ST 江口 瑠美子　CM 村上 晶之

第3会場（2階南室）

地域における発達支援を考える 1-2-2

発達障害児への介入・支援において、当事者が抱える問題は多岐にわたりますが、必要な専門職に繋がることが困難な現状があります。特に、地域の療育環境では支援資源が不足していることや、関係機関間の連携が不十分であることが課題で、支援者側が抱える問題も多岐にわたります。

例えば、健診で問題が顕在化しても、医療や福祉と迅速に連携が取れないケースも存在する可能性があります。これにより、子どもや家族が孤立し、適切な支援を受ける機会を逃すリスクが高まっています。このような状況を改善するためには、多職種が協力して情報共有や支援計画を立案する仕組みが重要です。地域ごとの課題を踏まえた包括的なアプローチを構築し、医療、福祉、教育、行政が一体となって取り組む体制が求められます。本ワークショップでは、事例を念頭に多職種連携の具体策を検討し、支援体制の充実に向けた方向性を探ります。

登壇者

DR 鈴木 理恵　PT 小橋 憲侍　OT 草野 祐介　ST 弓削 明子
ST 板東 弘美　SW 大塚 秀樹

DR 医師　DDS 歯科医　PT 理学療法士　OT 作業療法士
ST 言語聴覚士　NS 看護師　HNS 訪問看護師　SW ソーシャルワーカー
MSW 医療ソーシャルワーカー　CM 介護支援専門員　CW 介護福祉士、介護職　PO 義肢装具士
PHN 保健師　RD 管理栄養士

2025.2.9日

第1会場（2階北室）

9:00 **2日目開会式**

9:05 **私たちが考える自立と共生** 2-1-1

―どんなに障害が重くても『地域』で自分らしく暮らす―

いわゆる「健常者」と呼ばれる人にとっては、当たり前すぎて考えることもない「外出」や「地域で生きる」ということ。それと同じことを「障害者」がやろうとすると、「家族で対応できないなら無理」「月に2回も外出できたら十分」って言われる。健常者にとっては「普通の当たり前」が、障害者には「特別な非日常」になっていることをほとんどの人は「まぁ仕方ないよね…」って思っている。本当にそうなのか？いや、そんなはずがない。どんなに障害が重くても、「好きな時に好きなところへ行きたい」。「住み慣れた『街』で暮らし続けたい」。決してわがままなんかじゃない。「人」として当たり前のことを当たり前に言っているだけ。

そんな当たり前の欲求を叶えるために、「重度訪問介護」という制度を使って、『地域』で自分らしく暮らす重度障害者のリアルをお伝えします。

登壇者

10:05 当事者 大藪 光俊　当事者 塚本 宏

10:15 **生討論！病院・在宅における情報共有・連携の実際と本音 Part2** 2-1-2

病院間、病院・在宅間での情報共有・連携について、双方の実状と本音を共有することで異分野・他職種間での相互理解、より良い現場運用につなげていくことを目的とした本企画、前回に続き2度目の開催となります。

前回、情報共有・連携はサービスの決定が目的ではなく「24時間軸」での「目の前で見えない」情報こそ、伝えるべき・ほしい情報であることや、手段が統一されないと煩雑な事務作業の悪循環ループに陥るため、共通のプラットホームやマルチSNS運用が理想であることも意見としてあがりました。今回、特に「ほしい・伝えるべき情報」と「効率的連携手段」を掘り下げて『続・生討論！』を行います。是非、皆様のご参加お待ちしています。

11:10

登壇者

DR 前田 博士　DDS 大河 貴久　PT 大藪 誠士　OT 三谷 良補
ST 阪下 英代　NS 平石 ひとみ　SW 中島 成之　MSW 出口 貴能
CM 塚田 聡　PO 坂谷 威

12:00

第3会場（2階南室）

京都JRAT研修会（JRAT：Japan disaster rehabilitation assistance team） 2-2-1

今後30年間に起こるとされる南海トラフ地震では、京都市内でも最大震度6強の大きな被害が想定され、日常生活では関わりが薄い災害対策に関してもはや他人事ではありません。自分や家族、知人、職場等を守るために被災地でどのような受援・支援を行うのか、また医療・介護関連の専門職として、何ができるのか、職種間でどのような連携をとっていくのか考えていく必要があります。今回、ちょうど1年前の能登半島地震支援を振り返り、各支援団体間での医-医・医-介護間での「実際の連携」はどうであったか、また南海トラフ地震など今後想定される災害においての「未来に向けての連携」について、京都の各支援団体からの経験やホンネも含めたディスカッションを中心としたシンポジウムを企画しております。

当日はリハビリテーションチーム、栄養士チーム、保健師、福祉チームといった、実際に災害派遣実績のあるチームメンバーにご登壇頂き、活発な議論や意見交換をして頂くほか、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）の栗原代表をお招きし、連携に主軸を置いたレクチャーも行って頂くという、密度の濃い内容を予定しております。

登壇者

DR 栗原 正紀　OT 平 十幸　PHN 西邑 公子　RD 細井 佳代子

そこってどんなとこ？
・COCO・てらす
・京都市障害者スポーツセンター 2-2-2

今年から始まる連続企画。名前はよく聞くけど、そこっていったい何をやっている施設？利用方法は？私たちが知ることで患者さん・利用者さんの制度利用や社会参加の幅が広がるはずです。

登壇者

COCO・てらす 黒木 阿紀子　京都市障害者スポーツセンター 太田 裕子

待ったなし！心不全パンデミックとリハビリテーション医療・介護 2-2-3

「心不全パンデミック」をご存知ですか？生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などによって、心不全の患者さんが急増しており、2030年には130万人に達すると推計されています（がんの罹患者数約100万人）。症状を軽くして生活の質を改善し、より長く健康な状態を保つためにリハビリテーション医療・介護に携わる我々にできることはなんでしょう。今回は、京都心不全ネットワーク協議会の皆様に教えてもらいましょう。

登壇者

DR 白石 裕一　PT 山端 志保　NS 福田 紘　NS 櫻木 知子

第1会場（2階北室）

第3会場（2階南室）

12:00 **ポスター発表、参加者交流（第2・3会場）**

13:30

栄養・口腔・嚥下 どう繋がる？繋がるとどうなる？

2-1-3

令和6年度診療報酬改定において、高齢者のフレイル対策と地域包括ケアシステムの推進が重点項目として大きく取り上げられました。特に「栄養管理」と「口腔・摂食嚥下の機能維持・向上」は、健康寿命の延伸と要介護状態の予防に不可欠な要素として注目されています。

本パネルディスカッションでは、これら「栄養管理、口腔・嚥下機能維持・向上」に関する取り組みを共有するとともに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携による包括的な支援体制の構築とその在り方について、前半は、それぞれの職種の専門性を活かした具体的な実践事例について情報交換を行う。後半は、地域における栄養管理の課題や今後の栄養サポート体制の構築について活発な意見交換を行い、次年度の「どう繋がった？栄養・口腔・嚥下チーム活動」につないでいく。

登壇者

DR 櫻井 桃子　DDS 中川 研人　ST 小嶋 優子　NS 大橋 由基
RD 河上 澄子　歯科衛生士 岩崎 香代

14:40

義肢装具士とセラピストが協力すると何が生まれる？

2-2-4

～生活期の補装具支給について 知る、共有する、考える～

補装具は身体障害のある方にとって、日常生活や社会生活を送るうえで必要不可欠なものです。しかしながら、不適切な補装具を使用し続けていたり、補装具破損時にどこに相談すべきかわからない方が少なからず存在します。加えて、その方々を支援する医療介護職種に対して生活期の補装具に関わる制度が十分に浸透していない可能性もあります。近年、生活期の補装具使用者に対するフォローアップについて様々な取り組みがなされています。

本セッションは、京都府・京都市下における身体障害者総合支援法下での補装具支給の現状について、実際に判定業務や生活期の補装具製作に携わる各医療介護職からお話を伺い、補装具に関する制度や考え方について知識を深めるとともに、お互いの現状や困りごとの共有を目的としています。

また、生活期の補装具使用者に関わる医療介護職がお互いのつながり方を知り、分断されたアプローチではなく、切れ目のないフォローアップを実現するためのワンステップになるようなセッションにしたいと考えています。

登壇者

DR 今井 寛　PT 大西 武史　PT 秋本 美甫　CM 西村 聡
PO 飯塚 悠　PO 上田 健二　身体障害者福祉司 田上 紳二

DR 医師　DDS 歯科医　PT 理学療法士　OT 作業療法士
ST 言語聴覚士　NS 看護師　HNS 訪問看護師　SW ソーシャルワーカー
MSW 医療ソーシャルワーカー　CM 介護支援専門員　CW 介護福祉士、介護職　PO 義肢装具士
PHN 保健師　RD 管理栄養士

第1会場（2階北室）

14:50

痛みをとると活動が変わる！ 2-1-4

「痛み」は身体的・心理的活動に大きな影響を及ぼします。そのため、リハビリテーション医療・介護において、訓練や参加の阻害因子である痛みを軽減することは非常に重要です。

本講演の前半では骨・関節などに由来する痛みの原因・治療・訓練などについて解説します。後半では障害を持った方に頻発する疼痛について事例を用いて紹介し、その対応のポイントについて解説します。痛みからの解放によって、患者さんや利用者さんの持てる力を最大限発揮できる環境を作りましょう。明日からの現場でぜひお役立てください。

登壇者

DR 三上 靖夫　DR 沢田 光思郎

15:50

第3会場（2階南室）

今、DXで医療・介護が変わる！ 2-2-5

～現場目線で学ぶ、導入成功事例と乗り越えるべき壁～

デジタル技術の進化に伴い、医療・介護分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進は、業務効率化やサービス品質向上に不可欠です。しかし、多くの医療・介護施設はDXの取り組みに遅れをとっており、その一因としてDXに必要な人材の不足が挙げられます。本企画では、京都府下の医療・介護現場で実践されている成功事例を共有し、実践的な解決策を探ります。第一部：DX推進事例紹介本企画で取り上げる取り組みの一部を紹介します。医療機器管理アプリの開発：リハビリ室で管理しているポータブル機器にQRコードを貼付し、業務用iPhoneで読み取ることで機器の使用状況が一目でわかるようになり、重複予約の減少や機器使用頻度の向上に繋がりました。第二部：DX推進の課題と改善策の模索DX推進における属人化のリスクを軽減するため、現場に応じたデジタルリテラシー向上策を検討し、デジタルスキルの標準化・格差解消を目指します。さらに多くの働き手がDXに参画し、その成果を仕事や生活で活用するためのマインド・スタンスが根付くような戦略を検討します。本企画では、参加者の多様な意見を反映できるようLINEのオープンチャットを活用します。たくさんのご参加をお待ちしております。

登壇者

PT 吉川 晋矢　OT 伊藤 和範　ST 坂田 理恵子　CM 堀口 益光

16:00

みんなで語ろう これからのフォーラム これからの京都 2-1-5

京都リハビリテーション医療・介護フォーラムは、各団体からのメンバーが「手づくり」で企画・運営をおこなっています。参加のみなさんで、昨年・今年を踏まえ、これからのフォーラムのありたい姿・あるべき姿や、次年度に向けた企画を語り合いませんか？また、京都という街であらゆる方々が一生涯活き活きと活躍して暮らしていただくために「人、物、情報、場所（環境）」を必要な所に滞りなく提供していくにはどうすればいいのかを皆様と一緒にざっくばらんに語り合いたいと思います。フォーラムの締めの企画として屈託のない意見交換ができることを楽しみにお待ちしています。是非ご参加ください。よろしくお願いします。

17:00

17:00

閉会式

主催事務局　京都リハビリテーション医療・介護フォーラム事務局　〒602-8566 京都市上京区梶井町465　京都府立医科大学 スポーツ・障がい者スポーツ医学教室内